

YO-U

瓔



2019. 6. Vol.19 No.2 Summer

ミルクキャラメル

じつめい

地下足袋の親指その他春の土

春の土手ふわっふわっのくるみぱん

木の芽風自分の為の椅子選ぶ

卒業の午前八時の花時計

戸惑いは春風とくる変声期

ちようちよちようちよちよ頷き入るのは疲れるよ

春愁のポケットからミルクキャラメル

ジャングルジム水色桃色花菜風

何度でもうなずいて吹くシャボン玉

春の空人影濃くなり薄くなり

渡れない川の向こうの花菜畑

桜まで開いていたから乗る電車

昔、八坂神社の朱塗りの西楼門をくぐったところに「八坂の母」と呼ばれた占い師がいた。門の隅に小さな机を置き、東洋占星術の四柱推命占いがよく当たたる人気の鑑定士。寒い寒い冬の仕事帰り、会社の先輩と興味半分というより結構本気で行列に並んだ。八坂の母は手を取り、姓名の画数など手早く計算「この結婚は大丈夫ですよ。進みなさい。あなたは丈夫ですね。老衰でしか死にません」と言い切った。その言葉通り、先輩は目出度く結婚、苦勞も多々あったようだが、大らかな性格で全てを飲み込み乗り越えた。堅実で今でも優しい先輩だ。私にも八坂の母は手早く的確なアドバイスをくれた。お蔭で迷いを払拭。会うとその時の話で盛り上がる。

「信じる者は救われる」かどうかは人それぞれだが、どこか当たっている気がする。

モジヤモジヤ

辻響子

その先の菜花畑を目印に

川沿ひのツツジ吸つたり浮かべたり

新井真紀の絵本にたんぽぽを挟む

マリンバ叩く春服の肩いからせて

桜山で下車す両手に大荷物

もやもやをモジヤモジヤなぞり桜描く

海水滴たる前浜もんの新若布

馬鹿貝のベロ朱朱と馬穴売

あがれあがれあがれ気持シヤボン玉

先生の蜜蜂遊ぶ母屋前

針山のマチ針数ふ春心

夏近し飛行船二機悠々と

松風庵主さんの「運勢」を、朝刊が届くと一番に開く。佳い時は自慢し、そうでない時は忘れてしまう。それくらいのお付き合い。

こんな日があった

「両親のまた両親、その上の両親。祖先の代々の愛のありっただけで育ってきた」とあり、今日はお墓参りに行こうか、とかね。そういえば昔昔、友達に付いて行った古い屋さんで帰り際に呼び止められて「アンタ死ぬまで日銭に困らんよ」と言われた。その時は何やそれと不愉快だったが、人生をふり返れば、本当にありがたいこと、

先日の、ボサノバシンガーの布上智子さんの小さなコンサートでのトークは、パラグアイの古い好きのおかみさんのいる、民宿「小林」での旅占い話だった。アンコールは「異邦人」。

小さなコンサートは「日銭に困らん」私のささやかな楽しみだ。古い万々歳ね、と手の平がかゆくなるほど拍手した。

本丸

辻水音

柳の芽ちりちりここが本丸で

水うらら歩けば鯉のつききたる

まことしあはせにさうらふ春の蠅

のどかなるびんずるさんを撫で足らず

土手青む放屁しながらブルドック

神足（こうたり）のお千度石のあたたかさ

ありあはせのものなんですが雛の間

水温むみんな出かけてしまふのか

ていねいすぎる春昼の理髪店

大臀筋使へば高くぶらんこは

朧夜の磯にただよふミントの香

夕東風や唄つて囃す島暮らし

今年の初めごろから、一日の初めは新聞の「易占い今日の運勢」から始まる「笑顔がふきこぼれる盛運日。快事が身近に」とくれば百万馬力で頑張ろうと思ひ、「木を見て森を見ず。小事にとらわれぬよう」との教訓を得ればじつくり行こうと腰を据える。運勢に一喜一憂することがこんなに楽しいなんて知らなかった。

宗教では、「物事は偶然ではなく必然に起こるのであり、すべて霊的なものに動かされている」と説くらしい。そういうものかと思えば、魂が常に傍らで守ってくれてると感じることは多々ある。科学とつく分野はいっぱいあってその中でも、医療における科学のめざましい進歩には信頼と尊敬を持っていておみくじも靈魂も科学も「わんこ占い」だって決しておろそかにせず、それぞれのパワーを少しずついただいで心軽々と過ごせたらいいな。

ヒトもツボミも

はしもと 風里

水の春ヒトもツボミもふくらみぬ

お彼岸の指はづませて菜を洗ふ

図書履歴にわたしがみえる春の風邪

しろじろと太き独活なり無傷なり

菜の花を生けとりあへず平和なる

春昼や本を縛るに眉根寄せ

水草生ふ出会ひは混声合唱団

フリージア恋愛対象には遠し

甘噛みに指をまかせる花曇

春宵の思考とどめる選挙カー

春の月いまでもだれかが嘘をつき

化粧水しみこむ桜散る夜を

星占いの本を持っていった。山羊座に特化した一冊。今は本棚のどこにもないが、なかの一節だけはよく憶えている「年を経るほど魅力が増していく人」と。

占いとは当たったり当たらなかつたり

今「おいしいってなんだろう？」という本を読んでいる。「崎陽軒」のシウマイ弁当好きが集まって、私はご飯から、僕はシウマイからシウマイに醬油をかける派かけない派、杏を先に食べる人、脇によけておいで最後にデザートとして食べる人。おかずの筍煮の食べ方まで、微に入り細に入り楽しそうな大人たち。シウマイを最後まで残していると未練がましいと言われ、型押しのご飯を一口で食べると色気がないと言われてしまう。お弁当占いできますねと誰かが言う。そんな占いなら参加してみたい私もシウマイ弁当の大ファン。まずはご飯から、です。

丸顔

波戸辺のぼら

きさらぎの耳うずうずとゴツホ展

卒業歌ハモれば尖る猫の耳

誠実の証しとしてのいぬふぐり

三月を君の笑顔がぼと灯す

桜東風一気に茹でるちゃんぽん麴

地虫出でずうつとペーパードライバー

初蝶来未来の森となる木々に

カステラのざらめガリガリ花の昼

たましいはどの樹に置こう桜道

一族はみんな丸顔磯遊び

あたたかや寄り添う犬のいる句会

春光に太陽の塔仏頂面

占いはあまり気にしない。テレビの今日の運勢も良いことは信じて、悪いことは無視する。都合主義者。

だいぶ前に流行った動物占いでは、私はリーダータイプの「ゾウ」らしい。そう言われたら、好きな山登りのリーダーを務めることはさほど苦にならない。

自分の行きたい山を企画立案することは楽しいし、メンバーの力を信順して皆に役割を担ってもらいながら山行を成功に導くことも得意かも知れない。(たまには道間違いなどのボカもあるけど)

まだ元気だった頃の母に、そんな話をしたら、「引っ込み思案で、ひとりではお使いにも行けないで、家のなかで静かに本ばかり読んどったあんたがねえ、信じられんばい」とびっくりしていた。

春の駅

林田 麻裕

春の昼何かを削る音がする

うららかや試しに歩かせてみるか

肩車の頃思い出す山笑う

春の風大きな家が建つらしい

木の芽風可愛い声の韓国語

先生のチョークの色よ雪柳

チョコ食べてチョコの香りの春炬燵

春の昼フルート吹いてくださいよ

悩み事なくて蛙の目借時

さくらさくら交互に鼻をすすってる

タクシーのようにふわりと沈丁花

人がいて安心するね春の駅

夕食の後、皿洗いなど終えて自由時間。
スマホでネットサーフィンをする。今日は
手相占いのホームページでも読むか。

なになに、私の左手には不思議ちゃん線
があるぞ。不思議ちゃんとは高校生の時に
言われたことがある。合ってるな。

ふむふむ、私は理系アタマなのか。理数
系の成績は普通だったけどな。知識と経験
で考える。それってみんなそうじゃないか。
感情的じゃないってことかな。

ええと、肝心の結婚線は真ん中あたりに
あるから、運命の人とは二十代後半に出会
うらしい、そんな今年二十九歳なのに兆候
ないんだけど。

ワイドショーのお気に入りコーナーが
始まる。今日生まれた赤ちゃんを一人取り
上げるコーナーだ。赤ちゃんも将来占いを
経験するかな。するよな。当たっても外れ
ても占いは楽しい。

知らぬ同士

火箱 ひろ

山笑う千円カットの男前

ただいまと春立つ島の風の中

窓際の席がいいなあお雛さま

草餅と大人の話しきいている

茶トラ猫春本番へ屈伸中

倒木の森の青空囀れる

囀りやさびしさびしと囀るも

切り株へ知らぬ同士の春の尻

思索派も楽天主義も春の土手

花殻を摘んで半日ほーほけきよ

春揺らすベネチアグラスの青い影

平成と令和のはざま囀れる

実家の母の机の上にはいつも、「高嶋易断」の曆があつた一粒万倍日とか三隣亡など、子どもの頃からこんな言葉が何となく記憶に残つていた。私の星は「六白金星」ということも刷り込まれている。

それで久しぶりにスマホで「六白金星」の運勢を引いてみる。

最初に出てきたのが「綾瀬の父の気学風水……ん？銀座の母や、八坂の母がいたなあ……まっ、いいか。

「人生万歳生命力漲る始動の年」だつて……以下続く「無敵艦隊六白金星、目からビームです。口からミサイルです。職場にバズーカを持つて出勤」ないでください。無制限撃ちつばなし！えええっ！わーあ、これが「父」ってことか？この歳になつてそれはやめて欲しい。しんどい。願い下げ！やれやれ、まっ、好きにしてくれればいいってことだわな。

さくら

忙しく過ぎる毎日莖立てり

莖立や肩の力を抜きましよう

雨あとの香のほのかなり花しきみ

幼には葛藤の春兄となり

囀りや日々を泣いたり笑ったり

たんぽぽの黄の明るさよ寂しさよ

父の遣せし砥石いろいろ山笑う

料峭や狭庭に数うちちの歳

制服を正しく着込み卒業す

啓蟄や墨をたつぷり「夢」と書く

メレンゲの角^つつつくや鷹鳩に

さくらさくら眠れぬまなうらのさくら

松井 季湖

花占いと聞いて先ず思い浮かぶのは、マーガレットの花ではないだろうか。「好き、嫌い、好き、嫌い…」と唱えながら花びらを一枚一枚はずしていき、最後の一枚がどちらになるかで、相手の気持ちを占うというもの、

私が通った中学校の体育館の裏には十本ほどのニセアカシアの木が植わっていた。そのニセアカシアの葉っぱで、当時憧れていたひとつ歳上の部活の先輩を思つて、花占いならぬ葉っぱ占いをした思い出がある。「嫌い」で終わるともう度やり直したっけな。思い出すだにこそばゆい、乙女な私。卒業して何年か後、中学校は移転し、ニセアカシアはもうない。当時憧れた先輩は、今私の隣の座椅子にもたれ、舟を漕いでいる。

ブブブブ

人混みにはぐれて会って冬日差し

古着市春着の人が売る古着

植木市「わしは今年でおしまいじゃ」

河津桜花重たげな眠たげな

淀城おぼろそろそろお腹がすいてきて

ふきのとう噛んでうれしい苦さかな

土砂降りの空をめざしてもものの芽は

雛の宿ポットときどきブブブと

昼月のへらとうすくて春浅き

春の雨あべのハルカスによきりによきり

人間は私ひとりで百千鳥

水温む逃亡するのによいポート

おーた えつこ

ときどき、私の人生は占いに支配される気がする。

若いとき、何かの占いで「あなたは40代で離婚するだろう」といわれた。まだ結婚もしてなかったのに。恋人もいなかったのに。友だちには爆笑された。

結婚してから、ときどき、「もーっ、離婚だー！」ってなることがあるでしょ。(まあ、理由は特に無いようなあるような) そんなとき普段はまったく忘れていた「あなたは40代で離婚するだろう」の占いを思い出す。そこで、私は考える。どうせ40代で離婚するんだから、ま、いいか。で、気がついたら40代っていつのことだっけ。私まだ呑気に結婚したままだ。

ね、私の人生は占いに支配されてる、かも？ 気のせい。

あほらし屋の鐘

近藤 綾

百歳を囃される立雛の膝

いちにちを寺の子となる花祭

陽炎える遺構の奥へ女神エヴァタ

切り岸の家衰弱し蔦若葉

山家売る境界線上相撲花

遠忌です母と姑へも桜餅

姑を知らぬ三代花菜漬

亀鳴いて自動扉に捕らわれる

タンポポの鉢抱く男いる日向

朧騒がせ鍵穴を探ってます

高窓をザワワザワ花ミモザ

あほらし屋の鐘なる桜葉がふる

とにかく当たるのです。

だから怖いのです。

不安感増幅傾向に有ります。

適当を知らない。冗談が通じない女だと

男は言うのです。

占いなどハナから信じない男と、新聞の

週間星占い極小記事にも一喜一憂する女。

しかし、この男と女ウサレ縁らしいです

(宿縁?)とかいう難しい言葉でした。

男には駅馬?の相と、五欲のうち飲食欲

の相のみ旺盛だとか。その通りの日々です。

女は血縁うすくも、晩年は幸せになると

言われました。

アツ住き他人に助けられるとも。ですが

姉のように慕った人は天上に逝かれました。

た。

もう晩年の域に来ていますが、幸福感は

ありません。

子が言います。「お母さんは欲が深い」

初期設定

笹村 ルル

春光とマスカルポーネのひとさじ

初めての白い珈琲誹さくらの芽

樹の中の小さき羽音水温む

超老犬また春昼を漂へり

また何か始まる予感花菜風

夫の折る簡易ごみ箱雛の夜

もうゐない犬のハーネス初つばめ

囀りの消えて薄暮の大櫂

飛花落花カートの犬の立ちんぼう

立ち話して二日後の春憂ひ

地球儀の日本真つ赤鳥雲に

桜葉降る同意同意の初期設定

現実主義的である私が、細木数子の六星占星術に興味をもちたのはいつだったのだろう。家族の運命星を調べ、それぞれの本も買ったなあ、「大殺界」「中殺界」なんていう言葉のとてつもなき不気味感。今じゃ自分が、「何星人」であつたのかも忘れてしまっているが。

占いとはいうものの、自分の運勢のこと、やはり気になるし知りたい。そんな自分の心が懐かしくもある。

朝のテレビの占いで私の星座が本日最下位の運勢だよと君われても、「ああそうなんだ」。反対に今日は最もいい運勢だよと告げられても「へえそうなんだ」の昨今。落ち込みも期待もしない。まあ占いごときではね(笑)なんとも可愛くない自分だが仕方ない。人生の経験値積んできているんですから。

そして「運命は自分で切り開いていくもの」という言葉が好きだから、なんとかそのように生きて行きたいなあ。これからも。

空き缶

たかはし すなお

受け皿にあふれる酒や春來たる

春日さす魔女役の子の高笑い

春寒のソファ―凹ます尾てい骨

蛙の子教材として足を出す

卒業や空にはじける笑い声

雨の日の母は無口よミモザ咲く

いつだってひらり先ゆく春の蝶

木の芽時町屋カフェの町屋蕎麦

さくらさくら伸びるキリンの黒き舌

土手青むウルトラマンがひょっこりと

空き缶を拾って帰る鳥帰る

つばめ飛ぶ水面やさしくなってきた

学生だった頃、京都八坂神社の階段下によくあたると言われていた占い師が居た。連日長蛇の列が出来ていたそうだ。

友だちの久美ちゃんは悩みもないのに友だちに付き合っただけに並んだ。折角並んだので占ってもらったそうだ。

どうだったと聞いたら、性格や家族構成などはあたっていたが、悩みがないので、ただ一般的な処世術みたいな事を言われたらしい、そして久美ちゃん曰く、並んでいる時の様子や話などから性格を分析しているみたい。もしそうであるなら、占い師は占いをしながら、話しながら周りの事を観察できる人なのだ、その事に驚いた。久美ちゃんは、その後結婚して幸せに暮らしている。その占い師が、その後どうなったかは知らない。